

雛とべに花の里

山形県

河北町





# ようこそ 雛とべに花の里へ



## 雛とべに花の里 山形県 河北町

### CONTENTS

P 2	ようこそ 雛とべに花の里へ
P 4	行政施策
P 6	河北町のあゆみ
P 8	河北町の概要
P10	河北町のひなまつり
P12	紅花資料館
P14	林家舞楽
P16	谷地どんがまつり
P18	かほくの四季
P20	観光・施設
P22	名産品・特産品



いぬがやう

河北町長 森谷 俊雄

河北町は、山形県のほぼ中央に位置し、山形空港を表玄関とし、東北中央自動車道東根IC、東根北IC、山形自動車道寒河江IC、山形新幹線さくらんぼ東根駅からは車で10〜15分に立地する「山形県の玄関口の町」です。万年雪を抱く月山や、雄大な朝日岳、樹氷で

有名な蔵王を遠くに望みながら、山形県の母なる川「最上川」と、清流「寒河江川」に囲まれた風光明媚な自然環境にあります。

町の花「紅花」は室町時代の昔から盛んに栽培され、江戸時代から明治時代にかけて紅花の集散地として栄えました。紅花を上方に運んだ船は、帰り荷として多くの優れた上方文化をもたらしました。雅やかな雛や紅花染めの衣装を纏って舞う舞楽などの文化遺産が今も受け継がれており、平成30年度には、文化庁が認定する日本遺産「山寺が支えた紅花文化」に本町の紅花資料館や享保内裏雛をはじめとする雛人形、林家舞楽などが構成文化財として認定されました。

また本町には、おいしいお米や牛肉、さくらんぼをはじめとする果物、秘伝豆、長芋、イタリア野菜など多彩な農産物が生産され、美味しい日本酒、冷たい肉そば、ソースかつ丼などの豊かな食文化やスリッパをはじめとする特産品が、全国へ海外へと発信されています。

山形県の玄関口として、先人から受け継ぎ、育み、築き上げてきた文化や地域の宝・魅力を磨き続けながら、人と企業を呼び込み、魅力ある雇用と仕事を興し、活力と安心、賑わいのあるまちづくりを町民の創意と力を結集して進めてまいります。

ここに、本町の姿を収録し、要覧として発行することといたしました。何卒ご活用を賜りますようお願い申し上げます。



# 行政運営の柱 「動く つながる 夢叶う」

## I「ゲートウェイタウン構想」

高速交通網との近さを活かして、人を呼び込み、企業を呼び込み、賑わいと交流を創出します。

山形新幹線さくらんぼ東根駅、JR左沢線寒河江駅から本町までは車で15分。山形空港からは10分。東北中央自動車道東根IC、東根北ICからは7分と大変高速交通網に恵まれた町です。このアクセスの良さと豊かな地域資源を生かし、自然と調和し住みやすい町、交流が生み出す活力のある町づくりを進めています。

移住・定住促進として、新たに賃貸住宅への移住者について支援してまいります。移住体験ツアーや首都圏でのPR活動に活かしながら、定住促進への取組みを強化してまいります。インバウンド交流も活発で、国外からの観光客も年々増加しています。また本町には、谷地工業団地と花ノ木工業団地があり、活力ある企業が数多く操業しています。



## II「やる気で稼ぐ人づくり、仕事おこし」

人づくりと農・商・工・観光や文化・スポーツの垣根を越えた仕事おこしを支援し、食と文化・観光を起点として産業振興を図ります。

豊穡なる大地をもつ本町の農業では、恵まれた土地条件や、清流「寒河江川」の基幹水利事業により、安定した稲作が行われています。一方で、農業従事者の高齢化、後継者不足などの問題も深刻化してきているため、新規就農者の支援や、就農研修生の受け入れを通して、農業後継者を育成する活動にも力を入れています。また、さくらんぼや枝豆、イタリア野菜など戦略作物を軸として、特色ある農業の振興に力を入れています。特にイタリア野菜の販路拡大として、海外へ目を向け、売り込みを図っていきます。



## III「互助共助の住みよいまちづくり」

町内各層の連携協力によるオールかほくの子育て支援、要支援者に寄り添った福祉サービスの提供、町民・地域に寄り添った防災・減災や生活環境の安全を確保していきます。

### 子育て・教育支援の拡充

福祉・医療・教育の各方面から「オールかほくの子育て支援」を行っていきます。河北町に愛着と誇りを持ち、将来にわたり河北町とかかわりを持ち続けられる人づくり、人材育成に力を入れていきます。

県立河北病院を中心に民間医療機関との連携を図りながら、地域医療体制の充実に取り組みます。

高校3年生までの医療費の無償化や小中学校の給食費の軽減、高校生等のバス通学の支援を行っていきます。



### 災害への備え

洪水ハザードマップ、土砂災害ハザードマップを作成し、避難・減災に役立てていきます。

防災無線放送のほかの情報伝達手段の複線化に取り組んでいきます。

また、要支援者施設からの避難についての計画策定を支援していきます。





# 河北町のあゆみ



河北町役場旧庁舎



昭和35年 たくさんの人々にぎわうひな市



昭和53年 児童動物園リニューアルオープン

## 昭和

- 1954年 昭和29年10月 河北町誕生
- 1955年 昭和30年12月 元泉地区が河北町に編入
- 1956年 昭和31年7月 最上川が増水 洪水の被害が1億円を超える。
- 1957年 昭和32年3月 「町自衛消防連合団」が結団式
- 1958年 昭和33年6月 町内12か所に季節保育所を開設
- 1960年 昭和35年8月 町営火葬場改築の竣工式を挙げる
- 1961年 昭和36年12月 町の米生産量が20万俵を突破し、史上最高を記録
- 1964年 昭和39年4月 満延・西里・北谷地の役場出張所及び元泉連絡所を廃止し、それぞれの地区公民館とする。
- 1965年 昭和40年8月 役場新庁舎完成 9月4日から業務開始
- 1966年 昭和41年9月 児童会館落成式と図書館創設50周年記念式を挙げる
- 11月 「河北橋」開通 県営渡船場廃止
- 1967年 昭和42年8月 集中豪雨で大正2年以降の洪水となる。
- 1968年 昭和43年12月 満延橋が竣工し、寒河江川の県営渡船場を廃止
- 1969年 昭和44年6月 「河北町外三市一町共立伝染病院 新築落成式」を挙げる
- 1970年 昭和45年9月 国民保養センター「河北荘」オープン
- 1971年 昭和46年4月 新吉田渡船場を廃止
- 1972年 昭和47年6月 河北町・寒河江市・天童市が村山広域水道に加入
- 1973年 昭和48年5月 産業会館(コミュニティセンター)の落成式を挙げる
- 1974年 昭和49年3月 「河北公園」「町民プール」が完成、「谷地保育所」落成式を挙げる
- 9月 町制施行20周年記念式を挙げる
- 1976年 昭和51年6月 谷地中央商店街協同組合のアーケード落成式を挙げる
- 1977年 昭和52年4月 町内の小学校で米飯給食開始(週2回)
- 1978年 昭和53年9月 谷地駅が姿を消す。
- 1979年 昭和54年4月 「河北中学校」が開校
- 11月 「谷地橋」が完成し、渡り初め開通式を挙げる
- 1980年 昭和55年4月 公共下水道工事始まる。
- 1981年 昭和56年9月 「町民体育館」完成 開館式を挙げる
- 1982年 昭和57年4月 河北町ほか2市広域畜場「妙光苑」が新吉田に完成
- 1984年 昭和59年5月 「紅花資料館」が開館
- 1988年 昭和63年10月 青年会議所が台湾から購入した「いもこ列車」が到着、河北中央公園で披露
- 1989年 平成元年4月 「町学校給食センター」がオープン
- 1990年 平成2年8月 「町民ゴルフ場」がオープン
- 1991年 平成3年7月 徳島県藍住町と友好都市を締結
- 1992年 平成4年10月 「べにばな国体」の卓球競技(成年部)開催
- 1994年 平成6年4月 道の駅・河北「ぶらっとびあ」がオープン
- 1995年 平成7年6月 町総合交流センター「サハトべに花」の落成式を挙げる
- 1997年 平成9年6月 農業集落排水処理施設が完成
- 1999年 平成11年6月 町民ふれあい交流館「べに花温泉ひなの湯」がオープン
- 2001年 平成13年1月 宮城県河北町との友好都市締結式を挙げる
- 2002年 平成14年7月 河北中カヌー部が、全国大会で8種目中4種目で優勝
- 平成14年8月 「全国高校カヌー選手権大会」で、谷地高校が2年連続5度目の優勝
- 2004年 平成16年10月 町制施行50周年記念式典を挙げる
- 2006年 平成18年4月 中学校のおかず給食開始
- 2007年 平成19年6月 河北町地域交流センター「どんがホール」の落成式を挙げる
- 2008年 平成20年5月 河北町交流館「遊蔵」の落成式を挙げる
- 2009年 平成21年4月 「河北町総合福祉センター」落成式を挙げる
- 2010年 平成22年10月 体験型滞在施設「ひなの宿」がオープン
- 平成22年11月 大塚文雄氏に名誉町民の称号を贈る。
- 2011年 平成23年3月 東日本大震災が発生。町内全域で丸二日以上の停電となる。
- 2012年 平成24年4月 「かほくイタリア野菜研究会」を設立
- 2012年 平成24年8月 友好都市交流記念事業「絆」開催
- 藍住町・石巻市・河北町がさらなる友好を誓い合う。
- 3市町間で災害応援協定を締結
- 2013年 平成25年7月 記録的豪雨の影響で、避難勧告を発令。町内全域で断水
- 2014年 平成26年4月 防災行政無線の運用開始
- 10月 町制施行60周年記念式典開催
- 町公式マスコットキャラクター「べにのすけ」誕生
- 2015年 平成27年6月 天皇皇后両陛下が紅花資料館を幸啓される。
- 2016年 平成28年6月 新しい町民プールがオープン
- 2017年 平成29年5月 紅花の水耕栽培を開始
- 2018年 平成30年5月 「山寺が支えた紅花文化」構成文化財として紅花資料館や林家舞楽などが日本遺産認定を受ける。
- 2019年 平成31年1月 河北町商工会が東京都内(三軒茶屋)にアンテナショップ「かほくらし」をオープン
- 令和元年8月 新庁舎建設工事起工式を挙げる

## 平成



平成20年 交流館遊蔵オープン



平成6年 道の駅河北ぶらっとびあオープン

## 令和

## 令和



新庁舎完成予想図



平成31年 アンテナショップかほくらしオープン



平成19年 地域交流センターどんがホールオープン



平成7年 総合交流センターサハトべに花オープン

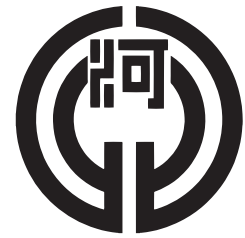


平成4年 国民体育大会の卓球会場になった町民体育館



昭和41年 河北橋開通式パレード





【町章】  
(昭和32年9月制定)



【シンボルマーク】  
(昭和55年11月3日制定)



【町の木 さくらんぼ】  
(平成16年10月1日制定)



【町の花 紅花】  
(昭和55年11月3日制定)

## 【河北町民憲章】

私たちは最上川にはぐくまれ  
べに花と米で栄えた河北町民です

- 1 歴史と伝統を尊び  
文化のまちをつくります
- 1 きれいな水と緑豊かな  
美しいまちをつくります
- 1 心とからだをきたえ  
明るいまちをつくります
- 1 きまりをまもり  
住みよいまちをつくります
- 1 働くことに誇りをもち  
生きいきとしたまちをつくります

(昭和55年11月3日制定)

### 【災害相互応援協定】



山形県  
東根市



宮城県  
石巻市



徳島県  
藍住町



愛知県  
豊山町

### 【友好都市】



徳島県 藍住町  
平成3年7月(1991年)締結



宮城県 石巻市  
平成18年1月(2006年)締結



河北町公式マスコット  
キャラクター  
べにのすけ

3. べに花の里  
古えからの  
どんが祭に  
舞楽の舞に  
文化気高き  
河北町  
人集う  
町沸きて  
伝統と  
雁わたる

2. 朝霧に摘む  
往事を語る  
紅花染の  
旧き邸の  
歴史の馨る  
河北町  
よみがえる  
雅びとて  
資料館  
紅の花

1. みちのく山河  
街は賑わう  
蔵の座敷に  
母なる最上川  
自然豊かな  
河北町  
酒酒と  
古代雛  
雛の市  
春の色

## 「河北町民歌」

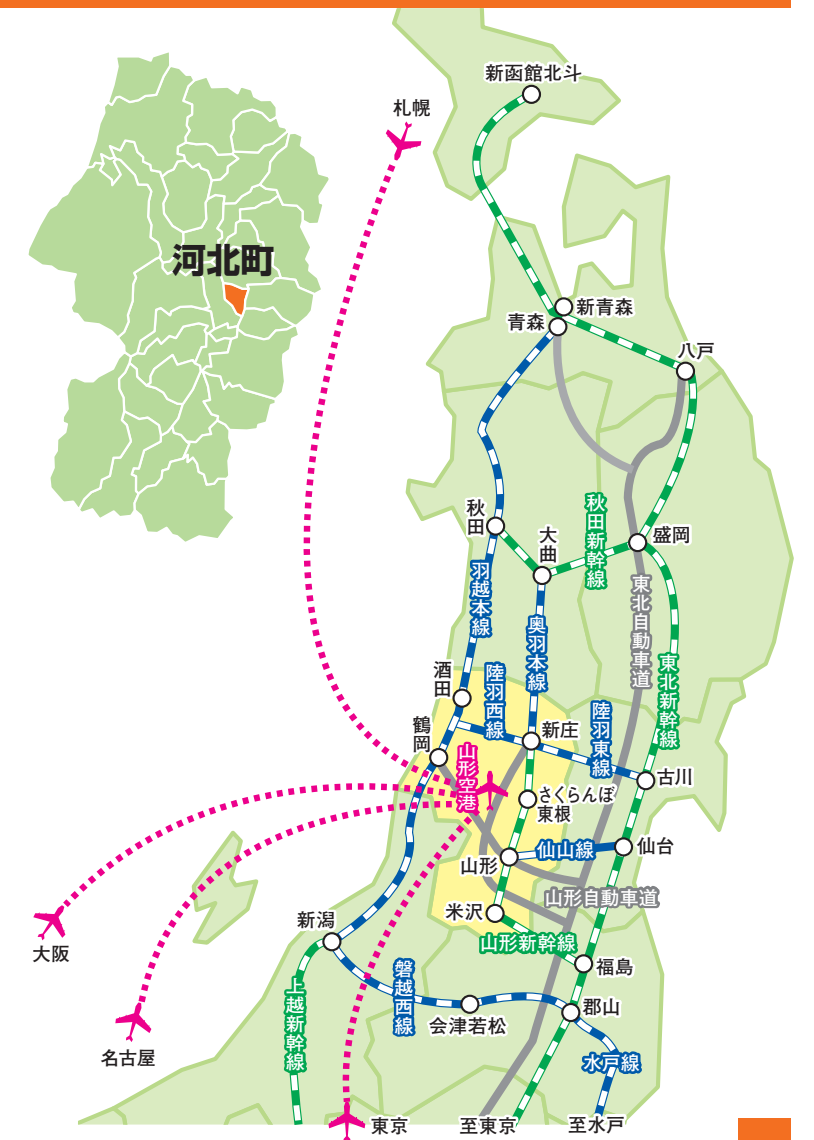
## 【河北町の位置】

東経140度19分  
北緯38度25分  
標高90.28m  
面積 52.45平方キロメートル  
(東西8km、南北11km)

河北町は、山形県のほぼ中央にあって、  
万年雪を抱く月山や、雄大な朝日岳、さらには、  
樹氷で有名な蔵王を遠くに望みながら、  
山形県の母なる川「最上川」と清流「寒  
河江川」に囲まれた、風光明媚な環境の中  
にあります。

山形空港(おいしい山形空港)を表玄関  
とし、山形新幹線さくらんぼ東根駅、山形  
自動車道寒河江インターチェンジからは車  
で15分の距離にあり、東北中央自動車道  
東根インターチェンジからは、わずか7分  
のところす。

【人口】18,349人  
【世帯】6,274世帯  
※令和2年1月31日現在



## 飛行機

大阪(伊丹)	約75分	山形空港 おいしい
名古屋(小牧)	約65分	
東京(羽田)	約60分	
札幌(新千歳)	約60分	

タクシー 10分

## 自動車



## J R

所要時間は目安となります

東京駅	山形新幹線 約3時間	山形駅	25分	寒河江駅	タクシー 15分	バス 20分
仙台駅	仙山線/奥羽本線 約1時間30分	山形駅	30分	さくらんぼ東根駅	タクシー 15分	バス 20分

## バス

所要時間は目安となります

仙台駅	国道48号 特急48ライナー 約1時間10分	さくらんぼ東根駅	タクシー 15分	バス 20分
-----	------------------------	----------	----------	--------

河北町





# 雛の微笑に 華やぐ春

## ◆雛人形の歴史・伝統

河北町にはたくさんのお雛人形が大切に保存されています。その理由は、北前船での紅花交易の返り荷として京都から伝わったからです。雛人形には立雛や寛永雛、元禄雛、享保雛、古今雛、有職雛、稚児雛、親王雛、芥子雛など多数あります。その中でも享保内裏雛、次郎左衛門置上げ立雛、御所人形、からくり人形は日本遺産に認定された「山寺が支えた紅花文化」の構成文化財となっています。

## ◆谷地ひなまつり

谷地ひなまつりは、月遅れの4月上旬に北口通りを中心に行列、「ひな市」が立ちます。

500年も前から谷地には毎月18もの市が立ち、大変な賑わいを見せていました。そのうち、谷地城主白鳥十郎長久公が開いた旧暦3月2日の市がちょうど雛の節句にあたるもので、いつしかそれが「節句市」、「おひな市」とよばれ、今日に至っています。

## ◆ひな供養

秋葉神社にて古い雛人形や形代に雛料理をお供えし、供養を行います。雛の節句は厄除けの意味を込めた行事であり、供養することで私たちの健康と幸福を願います。



享保雛

## ◆時代雛の公開

普段は公開されていない時代雛を特別に一般公開します。旧家の座敷蔵や大広間での公開となりますので、建物を含め昔の文化・雰囲気に触れることができますのが特徴です。美術館や資料館に委託することなく、民間の個人宅で時代雛を保存し公開することは珍しいことです。京都からの文化を大事にしていた当時の人々の姿をつかがい知ることができます。



ところで、雛飾りの最上段に飾ってある男雛と女雛、向かって右に飾るのは男雛と女雛のどちらでしょうか。

どちらが正解というものはありません。しいて言うならばどちらも正解で、京雛は向かって右が男雛、関東雛は向かって右が女雛とルールが決まっています。そのため、京都から伝わった谷地の雛人形は向かって右に男雛が飾られています。

雛人形へのお供え物も地域独自のものです。春告げ魚の鯉、田螺、野老(ヤマノイモ科の植物で根を食用とします)、アサツキ、慈姑、鶏卵、岩海苔の巻さずしをお供えし、毎日新しいものに供え替えを行います。



## ◆ひな市

ひな市通りに出店が並び、雛人形や雛節句用の食品、だるま、玩具、日用品などが販売されます。

ひな市通りは旧建設省が選出した「日本の道百選」の一つです。蔵が多く立ち並び歴史的景観が特徴なので、市を楽しみながらゆっくりと歩いてみてはいかがでしょうか。







## 河北町と紅花のあゆみ

山形県では室町時代より紅花の栽培が行われていました。特に河北町は江戸時代の頃、最上川舟運の紅花集散地として栄えた町です。特産の「最上紅花」の花びらを紅餅に加工し京都へ送り、京都の紅屋では真っ赤な紅がつくれます。紅は口紅や染料として重宝し、その艶やかな紅色は女性の憧れとなりました。

明治時代、海外からの化学染料におおされ紅花からつくられる紅は次第に低迷します。しかし、紅花で染めた布の美しさは時代を越えても変わることはなく、今でも宮中や皇大神殿の式典で用いられる服は山形県の紅花で染められ続けています。

# 紅花で栄華を極めた町



べにりんす じかすみ たけもんしほりぬいふりまで  
紅綸子地霞にしだれ竹文絞繻振袖



青銅水盤  
(伊達藩白石城主拝領品)



紅花取引大福帳



明朝螺鈿高台  
(伊達藩白石城主拝領品)



大名膳

### 国内唯一の紅花資料館

紅花資料館は紅花商人、堀米四郎兵衛家の屋敷を資料館として整備した施設です。堀米家は代々名主をつとめ、江戸中期より農地の集積を計ると共に、紅花商を営み財をなしてきました。

堀米家の屋敷、座敷蔵、御朱印蔵、母屋、武者蔵、雛人形、紅花染め衣装などが日本遺産「山寺」が支えた紅花文化」の構成文化財になっています。

敷地内には紅花畑もあり、7月上旬に見頃を迎えます。

『長屋門』 格子片番所付長屋門です。塀の上壁は京都から取り寄せた紅殻を加えてつくられています。長屋門は農村では名主や村役人など上層部の家にしか造ることが許されていませんでした。

『武者蔵』 農兵隊の武器庫として利用され、大砲7門や具足などが保管されていました。1853年(嘉永6年)建築。

『座敷蔵』 江戸中期頃の堀建式の蔵で、後世に座敷蔵へと改造された客室として利用されました。河北町内で最も古い蔵のひとつです。

『御朱印蔵』 唐破風向拝付入母屋造の土蔵で、当時の名匠の技術が贅沢に取り入れられた御朱印蔵となっています(棟梁：松田仁作、設計：正面の彫刻：細谷藤吉、木鼻の獅子：高山文五郎)。

近郷の吉川村の新山神社から譲り受けた御朱印状を収めるため、6代目堀米四郎兵衛則勝によって1863年(文久3年)に建てられました。

『紅の館』 鮮やかに染め上げられた紅染衣装「紅綸子地霞にしだれ竹文絞繻振袖」や「紅綸子地扇面に花模様絞り繻振袖」「享保雛」や「古今雛」など紅花に関する貴重な資料が展示されています。紅花を出荷するジオラマや紅染めの手法の紹介も必見です。

『工房くれない』 紅花染め体験ができます。



『物産館』 紅花にまつわる商品(染物、紅ちよこ等)や河北町内の特産名産品のお土産を販売しています。





# 千百年の伝承 林家舞楽



林家舞楽は谷地八幡宮の神職林家に守り継がれている舞楽です。門外不出、一子相伝の決まりのもと、千百年に渡って伝承されてきました。紅花染めの艶やかな衣装を身にまとい舞う姿は勇ましく力強さを感じさせます。

りょうおう 陵王

なまがり 納曾利

## 林家舞楽

舞楽は遣唐使の廃止(894年)までに朝鮮半島や中国から日本へ伝わってきました。林家舞楽の起源は860年頃であり、舞楽が日本に伝来してからあまり年月がたっていないため、シルクロードの情景を現在に残しているものとして1981年に国指定重要無形民俗文化財として指定されました。宮中舞楽、四天王寺舞楽、南都楽所舞楽に並ぶ日本四大舞楽の一つにも数えられています。



さんだい 三台



げんじょうらく 還城楽

2018年、文化庁が認定する日本遺産「山寺が支えた紅花文化」の構成文化財にもなっています。

## 林家舞楽の歴史

谷地八幡宮の神職林家によって脈々と受け継がれてきた林家舞楽、その起源は山寺立石寺にあります。羽州山寺立石寺が開山されたのは860年、平安時代の頃に僧侶の円

仁によって開山されました。同じ頃、四天王寺(大阪市)の楽人(二雅楽を演奏する人のこと)である林越前守政照は円仁と共に東北地方へ行き、四天王寺の舞楽を山寺に伝えたとされています。その後、山寺では例年舞楽による奉仕が林政照の子孫によって行われるようになりまし。子孫たちが舞楽を守り継ぎながら、室町時代になると慈恩寺(現在の寒河江市)へ、江戸時代初期に谷地に移り住み、林家は谷地八幡宮の神職になりました。

林家の代々が住まいを持ち舞楽を行った山寺立石寺、慈恩寺、そして、谷地八幡宮では現在でも毎年林家舞楽が奉奏されます。山寺立石寺では臨時法会、慈恩寺では5月5日の一切経会、谷地八幡宮では9月の秋の例大祭です。



せんじゆ 箏手

林家に残された「舞楽図譜」によると舞楽の演目は二十九番。しかし、現在では十一番までしか伝承されていません。また、楽器の数についても昔は三管三鼓でしたが、現在は三管三鼓(竜笛・大鼓・鞆鼓・鉦鼓)です。鞆鼓は左右の面を打つ両面太鼓で、鉦鼓は青銅製の皿のようなものをつくる叩く楽器です。

時代を経ながら演目や楽器の数は減少していますが、舞楽の荘厳さや勇ましさは昔も現在も変わっていません。これからも林家舞楽は林家の子孫によって脈々と受け継がれ、遙か昔の芸能を現代に生きる私たちに見せてくれることでしょう。



ま 安摩



やくしん 楽人

えんぷ 燕歩



# 勇壮・華麗

## 谷地どんがまつり

谷地どんがまつりは谷地八幡宮の例大祭で、毎年9月の敬老の日を含む土・日・月曜日の3日間行われます。約400年前の江戸時代初期から行われている伝統のあるお祭りです。

3日間のお祭りでは、舞楽奉奏（林家舞楽）や谷地奴・囃子屋台巡演、御神輿渡御・御神輿還御、提灯屋台の展示など日中から夜まで様々な行事が賑やかにとり行われます。



大鳥毛



### 紅花交易の栄華の末に

#### 生まれた当番制

谷地どんがまつりは町を3つに分けた3地区が1年交代でお祭りの一切を仕切る当番制で行われています。この伝統はお祭りが始まった江戸初期から厳しく受け継がれているものです。

3地区が当番制でお祭りを仕切る理由、それは紅花と関係しています。

江戸時代初期、紅花交易が栄え人々が豊かに生活していた頃のことです。どんどん財を成し勢力が高まっていくことを恐れた幕府は谷地地区を3つの領に三分割して統治するという対策を講じました。その分割を逆手にとって当番制を確立させたのです。お祭りの中で行われる谷地奴・囃子屋台巡演は当番の地区のみに許された行事です。それぞれの地区が独自の囃子を鳴らします。当然、地区同士の競争心が高まり、巡演はより気合が入ったものとなってお祭りが盛り上がるのです。その気合の入れ方はさまざま、昔はお祭りの一週間前からは仕事を休んで準備していたようです。



谷地奴は御神輿を先導する露払いの役割を務めます。その姿は前結びの鉢巻き、紺色の半纏、赤股引き、白前掛け、脇差を帯刀しています。

谷地奴に選ばれる男性は一世一代谷地男の名譽とされるほど誇り高き役目です。挟箱2人、立傘1人、台傘1人、大鳥毛1人、黒熊毛2人、白熊毛2人、以上に付き人が1人ずつ、先払い、わらじ持ちから成っています。

長く延ばす掛け声や独自の振り歌が特徴的で、振り始めと振り終わりの「立て」と呼ばれる所作が見物です。







# 出かけよう! 巡ってみよう! 町を彩る かほくの四季

## 冬 秋 夏 春

1月中旬 初市  
中旬 町成人式

12月上旬 晦日市(谷地八幡宮)

11月上旬 町総合文化祭

10月中旬 かほくほくほくまつり **8**

9月上旬 ベに花の里俳句大会  
中旬 谷地どんがまつり(八幡宮例大祭) **7**  
下旬 岩木豊年太鼓(岩木熊野神社)

上旬 一夜千日観音まつり(大町観音堂)  
下旬 溝延八幡神社祭典  
下旬 沢畑風祭り太鼓(沢畑月山神社例祭)

8月上旬 一夜限りのかほくつまいもの横丁・よるのどうぶつえん **6**

7月上旬 ベに花まつり(紅花資料館ほか)  
上旬 ベに花マラソン大会 **5**  
中旬 きゅうり天王祭

6月上旬 四国八十八ヶ所沢畑霊場例祭

5月上旬 谷地春まつり(皇太神社例祭)  
上旬 押切田植踊り(押切稻荷神社例祭) **3**  
上旬 両所田植踊り(両所神社例祭) **4**

4月上旬 谷地ひなまつり(ひな市通り) **1**  
中旬 溝延さくらまつり **2**  
下旬 岩木観音まつり





# 観光 & 施設



**1 どんがホール**  
普段は憩いの場、祭りやイベントのときはテラスやコリドーとの一体的な活用で賑わいます。



**2 河北町民プール**  
健康づくりに特化した屋内プールが目玉。(写真は屋内温水25mプール)



**4 交流館遊蔵(ゆっくら)**  
1号倉庫は軽スポーツなどを楽しめる屋内運動場、2号倉庫は郷土資料館となる、交流の場です。



**5 サハトベに花**  
ドーム型の全天周劇場を備えた多目的交流施設。図書館やホール、交流室もあります。



**6 道の駅河北(ぶらっとびあ)**  
最上川をのぞみ、本町の東の玄関口となる道の駅。谷地八幡宮の火の見櫓を模しています。



**7 谷地八幡宮**  
寛治5年創建と伝わる大社で、国の重要無形民俗文化財「林家舞楽」(谷地の舞楽)を伝承。



**8 べに花温泉 ひなの湯**  
泉質の良さが評判のひなの湯。入浴効果も高く、とくに神経痛やリウマチなどに効能があります。



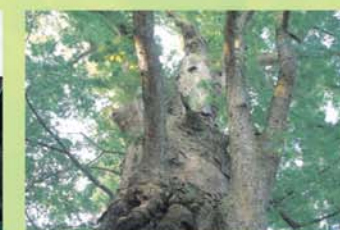
**9 ひなの宿**  
農業体験や観光、ビジネスの拠点としてご利用できます。ひなの湯も利用でき、低料金で宿泊できます。



**10 河北中央公園 (いもご列車)**  
子供たちに人気のいもご列車。子供たちに人気のいもご列車。(昔、谷地〜神町間を走っていました。)



**11 蟠龍の松**  
龍があたかも天を目指していくかに見える松の古木。樹齢約500年で、県指定天然記念物。



**12 溝延の大けやき**  
高さ30m、根周り11mの堂々たる巨木。樹齢約750年で、県指定天然記念物。



**13 白鳥十郎墓碑**  
戦国末期、このあたりを治めていた谷地城主白鳥十郎長久公の墓碑。東林寺にあります。



**14 岩木観音**  
最上三十三観音霊場第十八番の札所で、春〜初秋は県内外から巡礼に訪れる人で賑わいます。



**15 サン・スポーツランド河北 (楽天イーグルスベに花スタジアム河北)**  
野球場とテニスコートを備えた本格的なスポーツ施設。



**16 引竜交流広場**  
緑豊かな自然を満喫しながら、パークビューやいも煮会などをお楽しみいただけます。



**17 河北町民ゴルフ場**  
最上川河川敷にあるゴルフ場。低料金で気軽にプレーできるところが人気です。

**3 河北町児童動物園**  
県内唯一の児童動物園。動物達と楽しくふれあえる「ふれあい体験」が大人気です。新しい仲間も続々と増えています。年中無休、入園無料です。





# 河北町 名産品 特産品



## 「冷たい肉そば」

河北町の肉そばは、コシのある田舎そばに鶏出汁ベースの甘じょっぱいタレ、親鳥のチャーシューの冷たいおそばです。冷たいと言ってもキンキンに冷えた物ではなく、常温～ぬるめ。河北町民のソウルフードです。



## 「イタリア野菜」

「国産のイタリア野菜を使いたい」そんなシェフのひと言から始まった取り組みです。きっかけはさておき、河北町の寒さがイタリア野菜の生育環境と合致し、県内外の飲食店に販売を行っています。



## 「秘伝豆」

大粒でボリュームがあり、味が濃いことが特徴の秘伝豆。やみつきの美味しさです。旬は9月下旬～10月上旬。えだまめとしても絶品ですが、秘伝豆を使った豆腐もおすすめです。



## 「さくらんぼ」

山形県と言えば、さくらんぼ。河北町のさくらんぼは、全国の町村の中で日本一の生産量です。旬を迎える6月中旬は市場も観光農園も活気にあふれます。是非、さくらんぼ狩りにいらしてください。



## 「ソースカツ丼」

河北町のソースカツ丼は卵でとじず、揚げたてサクサクのままご飯にのせます。そこに独特の甘じょっぱいソースが決め手。たれのついたご飯までもがおいしい、食欲を刺激する一品です。

## 「紅花染め」

花びらのオレンジ色だけでなく、ピンクや深紅など様々な美しい色が揃っています。どの色も気品があり、持つ人の上品さを引き立ててくれます。



## 「スリッパ」

農閑期に行われていた稲ワラでの草履生産がスリッパへと移り変わり、今では全国一の生産量となりました。履き心地はもちろん、有名デザイナーを起用しデザイン性にも力を入れています。



## 「お米」

お米のおいしさは、おいしい水で育てられた証です。河北町のお米は、月山の雪解け水が注ぎ込む寒河江川の水で育った自慢の品。はえぬき、つや姫、雪若丸など品種も豊富です。



## 「地酒」

村山平野のおいしいお米と寒河江川の伏流水からつくる日本酒です。受け継がれた確かな技術を持った杜氏によって丁寧に仕込まれたお酒は地元の人々から古くから愛されています。







河北町公式  
マスコットキャラクター  
「べにのすけ」

## 河北町勢要覧



2020

発行 山形県河北町

山形県西村山郡河北町谷地戌81番地

TEL.0237-73-2111

FAX.0237-72-7333

ホームページアドレス

<http://www.town.kahoku.yamagata.jp/>

企画編集 河北町役場政策推進課

制作 (株)武田印刷